

課題を焦点化し、重点達成・改善の 手だてを打つ学校評価

札幌市立八軒西小学校

I はじめに

重点目標達成に向けて改善を図る学校評価

1 本校における学校評価のねらい

本校では、教育の質の向上、学校運営の改善、信頼される開かれた学校づくりを進めるために学校評価に取り組んでいる。教育活動や学校運営について設定した重点目標に対し、達成に向けての手だてを講じ、達成状況について評価することにより、組織的・継続的な改善を図っていく。また、自己評価及び学校関係者評価の実施と、結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進める。

重点や項目を絞り込み、改善点を明確に

2 昨年度の学校評価を基にした改善点

本校では、昨年度の学校評価結果を受け、学校評価委員会で検討した結果、以下に示す点について改善を図った。

- ①学校運営の重点目標と学校評価重点目標を同一にし、授業改善と学級経営力の2つの重点を設け、昨年度達成不十分だった点を絞り込んで評価項目に設定した。
- ②教職員と保護者の評価項目を同一にし、項目数を14に絞り込んだ。
- ③児童による評価の項目についても教職員と保護者と同一にして、項目数を11に絞った。3～6年生については、教職員と保護者と同じ4段階評定とした。
- ④重点目標を受けての学年学級経営についても達成度を毎月評価するようにした。



<留学生交流会>

II 本校の学校評価システム

重点達成の手だてを考え、実施し見直す

1 自己評価の充実を図る組織体制

自己評価の充実を図るために学校評価委員会を機能させ、学校評価重点目標、評価項目、各分掌部会の重点を設定した。また、各分掌部会で重点目標・重点を設定し、達成のための手だて（①方法、②時期、③回数、④達成レベル）を考え、実施し、中間評価で見直す体制にした。また、各学年で設定した学年目標・重点についても達成度を毎月評価し、改善の手だてを講じる評価システムの構築を図った。



<1年生を迎える会>

2 学校関係者評価の円滑な実施に向けた取組

本校では、年3回、学校関係者評価委員会を開き、自己評価の適切さや、改善策の適切さについて評価してもらっている。教育活動の具体を見たうえで評価していただけるよう、児童集会や学校説明会、学校公開日に委員会を設定するとともに留学生交流会や、教育実践発表会を参観いただいて、本校の特色である教育活動について理解を深めてもらうよう進めている。

Ⅲ 学校評価の1年間の流れ

	自己評価			学校関係者評価
	学校(教職員)	児童	保護者	学校関係者評価委員会
4	<ul style="list-style-type: none"> ○学校経営方針・重点目標の提示 ○分掌部会 重点目標・重点の設定 ○学年学級経営案 重点の設定 ○評価項目、実施方法の検討・提示 ○学校説明会 ○学年学級経営振り返り(毎月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力テスト(2～6年) 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校説明会 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童集会参観 ○学校説明会 ○学校関係者評価委員会① ・業務内容や日程の確認
5	<ul style="list-style-type: none"> ○計画に基づき実施 ○取組の実践・見直し(分掌・学年) 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会取組カード 		<ul style="list-style-type: none"> ○運動会観覧
6	<ul style="list-style-type: none"> ○計画に基づき実施 ○取組の実践・見直し(分掌・学年) 	<ul style="list-style-type: none"> ○1節の振り返りカード 		
7	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員による中間自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童による中間評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者による中間評価 	
8	<ul style="list-style-type: none"> ○中間学校評価 ・結果の分析、成果と課題の整理 			
9	<ul style="list-style-type: none"> ○学級懇談会で中間評価結果の公表 ○後期改善案立案提示(分掌・学年) ○中間自己評価書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○2節の振り返りカード 	<ul style="list-style-type: none"> ○中間評価結果 学力テスト結果 VTR(懇談会) ○学校公開日(授業参観) 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校公開日(授業参観) ○学校関係者評価委員会② ・中間評価について意見集約 ○中間学校関係者評価書の作成
10	<ul style="list-style-type: none"> ○改善案に基づき実施 ○取組の実践・見直し(分掌・学年) 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習発表会取組カード 	<ul style="list-style-type: none"> ○中間自己評価書配布 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習発表会観覧
11	<ul style="list-style-type: none"> ○改善案に基づき実施 ○取組の実践・見直し(分掌・学年) 			
12	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員による年度末自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○3節の振り返りカード ○児童による年度末評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育実践発表会参観 ○保護者による年度末評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育実践発表会参観(H21年度)
1	<ul style="list-style-type: none"> ○年度末学校評価 ・結果の分析、成果と課題の整理 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ○参観懇談で年度末評価結果の公表 ○次年度に向け改善案の検討 ○学校経営方針・重点目標提示 ○次年度教育課程編成(教育課程検討委員会・分掌部会) 	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業式取組カード 	<ul style="list-style-type: none"> ○年度末評価結果 VTR(参観懇談) 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ○学校説明会(次年度改善点の公表) ○年度末自己評価書の作成 ○学校関係者評価評価書の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○4節の振り返りカード 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校説明会 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童集会参観・学校説明会 ○学校関係者評価委員会③ ・学校関係者評価評価書の作成 ・年度末評価の説明と理解、意見集約

IV 学校評価の方法

1 自己評価

(1) 項目の設定

課題を踏まえ意識的に取り組めることに絞り込む

従来の評価項目は網羅的で、回答や集計に時間がかかるわりには、達成された点、達成が不十分だった点に分かりづらい側面があった。そのため、学校経営の重点目標や課題に沿って、内容を精選して評価項目を設定した。

今年度の重点目標「よさを認め合い心通わす八軒西の子」から、経営の重点「分かる授業の構築」「学級経営の充実」という2本の柱を立て、昨年度の課題に焦点を当て、教職員、保護者14項目、児童11項目を設定した。概ね達成されている項目については思い切って削除し、今年度重点的に取り組み、その達成度を問いたい項目や、昨年度から課題となっていて改善が必要な項目に絞った。

(2) 効率的な外部アンケート等の実施

教職員、保護者、児童共通の評価項目

本校では、7月と12月に保護者アンケートと児童アンケートを実施している。評価項目は教職員自己評価と同一で、3者の評価結果を比較し、共通点や相違点ができるようにした。保護者アンケートには自由記述欄を設け、意見や要望を具体的に聞くようにした。また、個別な要望や緊急を要する事項について、速やかに対応できるように記名式とし、封筒に入れて回収するようにしている。12月の年度末評価の保護者アンケート回収率は96%となっている。

(3) 結果の集計と分析・自己評価書の作成

マークシート方式で集計の負担を軽減

12月の年度末評価から回答用紙をマークシート方式にした。従来、保護者アンケートと児童アンケートは学級担任が手集計していたが、その必要がなくなり集計の労力が軽減された。回答用紙提出前に、自由記述欄に速やかに対応すべき要望等が書かれていないか学年で確認する時間を設定した。気がかりな事項については、教頭、総務と連携し速やかに対応した。

学校評価委員会で回答用紙を集約し、マークシート集計をする。自動計算でできた簡易集計表をもとに、各項目の平均値を求め、評定やA、B、C、Dの割合を表やグラフに表す。評定が高い(低い)項目、前回と比べて向上(低下)している点を中心に学校評価委員会で全体考察し、学校評価全体会で評価結果を周知する。各分掌部会・特別委員会・各学年で、評定の平均値が低い項目やC・Dの多い項目について自由記述欄の内容も加味しながら振り返りを行う。同時に後期(次年度)に向けての改善の手だてを考え、集約したものを学校評価全体会で提案し共有化を図る。「改善の方向」をここまで練り上げたうえで、学校評価委員会で自己評価書を作成している。

(4) 改善策の検討

方法、時期、回数、達成レベルを考える

評価結果を受けて各分掌部会、特別委員会で後期(次年度)に向けての改善の手だてを考えて実践していく。その際、「方法」「時期」「回数」「達成レベル」について考えてもらい、確実に取り組めて達成可能な事に絞って改善策を設定することとした。

また、平成20年度より、学年学級経営の振り返りについても学校評価に組み込み、学年目標や重点についての評価、改善案立案を毎月行うこととした。9月末には、後期に向けて改善の手だてを考えて、分掌部会同様、「方法」「時期」「回数」「達成レベル」を設けて後期の経営にあたるようにした。

2 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員の構成と役割

本校の学校関係者評価委員会は、学校評議員3名、地域代表2名、校長、教頭、総務で構成している。9月と3月に自己評価の適切さ、改善策の適切さについて

評定してもらい、学校の現状と課題について意見をいただいている。自己評価結果を学校関係者の視点から確認していただくことが、自己評価の客観性・透明性を高めることにつながっている。

また、委員の方々には、授業参観、行事参観、教育実践発表会など、学校関係者評価委員会の開催日以外にも学校に来ていただき、本校の教育活動を広く理解していただいたうえで、自己評価結果や今後の改善方策等について意見を述べていただいている。

授業や行事等の参観
の機会の確保

学校関係者評価委員
の方々の見方を知る

(2) 学校関係者評価を生かす取組

9月の学校関係者評価委員会では、基礎基本の定着を図る学習指導、望ましい言葉遣いなどについて、学校の取組を評価していただき、さらに推し進めてほしいと激励の言葉を頂いた。また、家庭学習や言葉遣いについて家庭での指導の重要性を述べられ、家庭への啓発を進めてほしいとの示唆をいただいた。これらの委員会で話し合われた内容を教職員に周知することで、学校関係者の方々が学校の取組をどう評価しているか共有することができた。

V 評価結果の公表

プレゼンと文書による公表



<学校説明会>

1 公表の方法

本校では、評価結果の公表を以下の方法で行っている。

①学級懇談（9月・2月）の冒頭に10分間のプレゼンVTRを流す。

・教職員による評価、保護者・児童アンケート、要望等をまとめ、本校の特色として長所となる点と改善を要する点が際立つように構成した。プレゼンの内容は文書としても配布した。

②自己評価書の配布

・中間評価の自己評価書を全家庭に配布し、各項目の達成状況や改善の方向について周知した。このことは年度末評価の際の評価の目安になり得たと考える。

③学校説明会

・3月の学校説明会では、年度末評価から浮き彫りになった次年度に向けての改善策を公表している。文書も同時に配布している。

2 公表の効果

評価結果のプレゼンVTRの後に学級懇談を行うことにより、評価結果を受けて、学年・学級の取組がどうであったか、学級担任が直接保護者に説明することができた。学校評価・学校改善に教職員全員で取り組む体制づくりの第一歩となった。

VI 成果と課題

評価項目の精選
改善策の意識化



<6年総合 ななかまど講座>

1 成果

- ・重点目標に沿って評価項目を精選し、教職員・保護者児童の項目を揃えたことにより、本校の特色としての長所や課題が明確になってきた。
- ・目標達成・改善に向けて、①方法、②時期、③回数、④達成レベルを各分掌部会や学年で設定したところ、取組が具体化してきた。
- ・学校関係者評価委員の来校機会を増やすことにより、委員の教育活動についての理解が深まった。評価結果や改善策でも具体的な意見をいただくことができた。

2 課題

- ・学校の長所と課題を的確に捉え、意識的に取り組めるよう評価項目を絞り込む。
- ・目標達成の方策を具体的に設定し、常に意識して取り組むようにする。
- ・学校関係者評価をさらに推進し、学校の取組について課題意識の共有化を図る。
- ・評価結果を学校ホームページに載せて地域の方々へも公開していく。

平成21年度 学校評価 自己評価書及び学校関係者評価書

平成 年 月 日
札幌市立八軒西小学校

- 1 本年度の重点目標
よさを認め合い 心通わす八軒西の子
- 2 本年度の経営方針
 - (1) わかる授業の構築
 - ・基礎基本を習得させ、一人一人に問題解決力を付けさせる。
 - (2) 学級経営の充実
 - ・温かい人間関係を築き、所属感や自信をもたせる。
 - ・望ましい言葉遣い、思いやりの心、規範意識を付けさせる。

3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		改善の方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
		教員	保護者			
わかる授業の構築	1. 授業が工夫され、楽しくわかりやすいものとなっている。					
	2. 児童が、学習をやり遂げた満足感や達成感をもっている。					
	3. 児童は、学習における基礎・基本が身に付いている。					
	4. 児童は、学習の中で進んで問題を解決する力が育っている。					
	5. 学校は、子どもの能力や取組を適切に評価している。					
学校関係者評価者による意見						
学級経営の充実	6. 児童は、学校の学習や活動に楽しく取り組んでいる。					
	7. 児童は、学級への所属感をもち、自信をもって活動している。					
	8. 児童は、その場の状況に応じて、望ましい言葉遣いをしている。					
	9. 児童は、周りの人を思いやり、親切にしている。					
	10. 児童は、きまりや約束を守って生活している。					
	11. 児童は、行事や係活動、委員会・クラブ活動などに積極的に取り組んでいる。					
学校関係者評価者による意見						
連絡相談	12. 学校は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている。					
	13. 学校は、子どものことについての相談に適切に応じている。					
重点目標	14. 学校は、「よさを認め合い 心通わす八軒西の子」を育てるための指導を積極的に行っている。					
学校関係者評価者による意見						

中間評価 後期に向けての改善点・重点達成の手だてⅡ（校務分掌Ⅱ・特別委員会）

校務分掌Ⅱ

	重点振り返り・現状	課題・改善点	改善の手だて（方法）	（時期・回数）	（達成レベル）
管理部	・掲示写真を更新し、子どもの感性を刺激する環境整備を進めている。	・校舎内外全体の環境整備があまり進んでいない。	・教育実践発表会に向けての環境整備計画に沿って、全体の整備を進める。	10月～12月	・古くなった写真、掲示物の掲示物を更新する。
情報部	・機器の管理、活用のサポートは概ねできた。情報管理についての啓発も行い、情報モラル学習もサポートした。	・パソコン学習についての情報提供 ・本校ホームページの更新	・調べ学習などにすぐに使えるサイトの紹介（文書で） ・外部人材の手を借りることも考えて、更新に着手する。	10月中 12月～	・3月までに市教委のポータルサイトを一度は活用してもらえるように。
渉外部	・各団体との連絡を密に行い、今のところ円滑に進んでいる。	・渉外部に関する取組、活動の周知	・朝の連絡用紙などで、渉外関係の委員会懇談会について若干の内容も含めて周知する。	随時	・みなさんに渉外関係の委員会、懇談会の様子を知ってもらう。

特別委員会

	重点振り返り・現状	課題・改善点	改善の手だて（方法）	（時期・回数）	（達成レベル）
防犯防災	・避難訓練、集団下校訓練ともに問題なく実施できた。	・防犯教室の内容	・H22年度からの防犯教室の内容等について検討する。	・12月	・H22年度の年間計画に位置付くように。
学校保健	・健康的な学校生活のために日常的に活動していた。	・新型インフルエンザへの対応	・再度、予防指導を徹底する。	・流行がおさまるまで。	・本校児童への感染を最小限に食い止める。
プール運営	・各担任の協力により、大きな問題もなく日程を終了できた。	・備品の整備	・検討のうえ、備品を購入する。	・次年度	・よりスムーズな運営
教材採択	・基本方針に則って円滑に採択できた。	・転出入児童への負担分が明確でなかった。	・H22年度の運営計画の中に、転出入児童分をどうするか明示する。	・3月	・H22年度の運営計画に明示する。
教育課程検討（通知表）	・5年宿泊学習の時期を検討した。 ・通知表の評価観点の見直しを図った。	・朝読書の充実 ・日課表 ・昼休み ・雪、環境、読書	・委員会の中で検討を重ね、2学期末または3学期初めに提案する。	・月1～2回	・委員会の中で焦点化し、数年続く取組にする。
学校評価	・学年目標・重点振り返りを新たに実施。 ・中間評価の改善の手だてを具体化。	・自己評価書の学校ホームページによる公表	・情報部のホームページの更新に合わせて自己評価書載せる。	・3月	・年間自己評価書をホームページにアップする。
学びの支援	・支援を必要とする子どもを見取り、楽しく学校生活を送るための手だてを検討している。	・支援を必要とする子どもを支える体制と把握。	・外部機関と連携し、子どもの様子を把握し、適切にかかわり、必要に応じて教職員に周知する。	・12月	・支援を必要とする子どもの安定した学校生活。
学校予算	・予算の活用について予算委員会を開き、各係の要望が反映された執行につながっている。	・研究全体会等、後期に向けての要望を拾えるようにしたい（教育実践発表会等に関して）。	・要望をあげてもらう場の設定。	・10月～11月	・教育実践に効果的に活用されるように。
スクールゾーン	・関係機関と話し合い、討議内容、啓発事項を便りに載せ保護者に配布した。	・玄関前の安全確保～駐車禁止の表示物などの設置。	・予算の中から、玄関前の安全確保物品を購入する。	・11月	・現在よりも駐停車禁止が印象付くように。
青少年育成	・他校との連携をとりながら、円滑に進めることができた。	・取組・活動の周知。	・青少年育成に関する取組を周知していく。	・随時	・青少年育成関係の情報が行き渡る。